メッセージアウトライン
ヨシュア記3:1~17
「ヨルダン川を渡る」

カナンの地とエリコの町を偵察に行った斥候たちは、主がカナンの地をことごとくイスラエルの手に渡されていること、そしてカナンの地の住民はみなイスラエルのことで震えおののいているという事実をヨシュアに報告した。かつて約38年前、荒野のカデシュからモーセが十二人の斥候をカナンの地に送った時、十二人のうち十人は否定的、悲観的な報告をもたらし、その結果、イスラエルの民は不信仰に陥り、主のさばきを受け、38年間シナイ半島の荒野をさまよい、その間に二十歳以上の者はみな死に絶えたのであった。十二人のうち二人は信仰に立った肯定的、積極的な意見を述べたが、その二人とはカレブと今イスラエルの指導者となっているヨシュアであった。彼ら二人はその信仰のゆえに主のさばきに会うことなく今日まで生きることができたのである。
38年前の出来事と比べてヨシュアは感慨もひとしおであったであろう。外的には昔と変わらず、カナンの地には高い城壁を持つ町々があり、そこには背が高く強い民が住んでいたであろう。しかし、二人の斥候の報告はそのような悲観的なことは少しも言わずに「主があの地を私たちの手にお与えになりました。あの地の住民はみな、私たちのゆえに震えおののいています。」(2:24)であった。イスラエルの主なる神がもう働いてくださっているのである。彼らの報告の指し示していることはただ一つ、「ヨルダン川を渡って約束の地に入り、エリコの町を攻め取らなければならない」であった。
それでヨシュアはすみやかに決断をする。
[1]「ヨシュアは翌朝早く起き、すべてのイスラエルの子らとともにシティムを旅立ち、ヨルダン川のところまで来て、それを渡る前にそこに泊まった」
もうヨルダン川は目の前である。ヨルダン川は北のガリラヤ湖から南の死海まで続くヨルダン峡谷を流れている川で峡谷の幅は狭い所で3キロメートル、広い所で25キロメートルもあった。峡谷の両側には切り立った崖がそびえており、峡谷の一番底をヨルダン川が流れている。後の方でわかるが季節は春と思われ、この時のヨルダン川は北のヘルモン山の雪解け水と春に降る雨で岸いっぱいにあふれ、幅も深さも相当なものであったと思われる。カナンの地に入るためにはまず、このヨルダン川を渡らなければならない。
[2-3]「三日後、つかさたちは宿営の中を巡り、民に命じた。『あなたがたの神、主の契約の箱を見、さらにレビ人の祭司たちがそれを担いでいるのを見たら、自分のいる場所を出発して、その後を進みなさい。」

ヨルダン川の手前で三日間とどまる間にヨシュアは主に熱心にこれからの導きを求めたであろう。その後、彼はつかさたちを通して民に命令を出した。「契約の箱」とは主なる神の臨在の象徴である。ヘブル9:4によれば全体を金でおおわれたその箱の中にはマナの入った金の壺、芽を出したアロンの杖、契約の二つの板（十戒を記したもの）が入っていた。また、その「ふた」も純金で、その上には金のケルビム（天使、天的存在）が箱をおおうように取り付けられていた。この契約の箱は、やはり金でおおわれた担ぎ棒によって神に仕えるために選ばれたレビ人の祭司たちが肩に担いで移動させることになっていた。それ以外の方法は不可である。今までの荒野の四十年の道のりも常に主なる神が彼らに先立つ雲の柱、火の柱を通して導いてくださったものであった。→出13:21~22　ここでもヨシュアはまず主の臨在を象徴する契約の箱を先頭にして、その後に民が続くようにしている。

[4]「あなたがたが行くべき道を知るためである。あなたがたは今まで、この道を通ったことがないからだ。ただし、あなたがたと箱の間に二千キュビトほどの距離を置け。箱に近づいてはならない。』」

1キュビトは約44センチメートルであるので二千キュビトは約880メートルということになる。それ以上近づいてはならないのは、普段は幕屋の中にあって見ることも近づくこともできない契約の箱に、罪深い俗なる人間がこの時とばかり近づくならば、神に打たれて死んでしまうという恐れと配慮からであろう。主なる神に先立っていただく理由はイスラエルが今までこの道を通ったことがないからであり、ヨルダン川のどの場所に歩みを進めていくべきかを主によって知るためである。そしてその後に民が従うのは、これは神の戦いであり、民はその神に従って信仰の戦いを戦わなければならないからである。

[5]「ヨシュアは民に言った。『あなたがたは自らを聖別しなさい。明日、主があなたがたの中で不思議を行われるから。』」

「聖別する」とは体を洗って清潔にするとか、衣服を洗うとか、性的行為を慎むとかなどが考えられるが（出19:10,15）、何よりもまず、心を尽くし、思いを尽くして主なる神に全く信頼する姿勢、心がまえが求められているのであろう。

「明日、主が……不思議を行われるから」…ヨシュアは四十年前の出エジプトの時、主が超自然的に紅海の水を分けてイスラエルの民がその海の底を歩いてシナイ半島の地に入ったことを経験しているので、今回も必ず主が奇跡を行ってくださることを確信していた。

[6]　それでヨシュアは祭司たちに「契約の箱を担ぎ、民の先頭に立って渡りなさい」と命じたのである。「渡る」とはヨルダン川を渡るということ。水かさを増して滔々と流れるヨルダン川に契約の箱を担いだ祭司たちが入って行くのである。何も起こらなければ、祭司たちは溺れ、契約の箱は流されてしまうであろう。そしてヨシュアは指導者としての信用を失うことになる。

[7-9] ヨシュアが祭司たちに命じた時点ではまだ主のことばはなかった。しかし、一歩踏み出さなければわからないことがある。祭司たちが契約の箱を担ぎヨルダン川に近づいて行ったその時に主からのことばがあった。主のことばは「今日から全イスラエルの目の前で、わたしはあなたを大いなる者とする。わたしがモーセとともにいたように、あなたとともにいることを彼らが知るためである」であり、具体的な指示としては、祭司たちが「ヨルダン川の水際に来たら、ヨルダン川の中に立ち続けよ」と命じることであった。ヨシュアは信仰によってものごとをここまで進めてきたが、ついに主からの具体的なみことばが与えられたのである。主のことばは実際には10~13節までの内容も含まれていたであろう。それは9節でヨシュアが「ここに来て、あなたがたの神、主のことばを聞きなさい」と言って13節までのことばを語っていることからもわかる。
[10-13] ヨシュアは言った。「生ける神があなたがたの中にいて、自分たちの前からカナン人、ヒッタイト人、ヒビ人、ペリジ人、ギルガシ人、アモリ人、エブス人を必ず追い払われることを、あなたがたは次のことで知るようになる」(10) ここに言われている七つの民はみな、カナンの地に住んでいる先住民である。
「見よ。全地の主の契約の箱が、あなたがたの先頭に立ってヨルダン川を渡ろうとしている。今、部族ごとに一人ずつ、イスラエルの部族から十二人を取りなさい」(11~12) このことは4章を見ると分かるが、主の契約の箱を担ぐ祭司たちが立ったそのヨルダン川の真ん中から十二の石を取り、それを宿営地に据えて主の奇跡によってヨルダン川を渡ったことの記念とするためである。
「全地の主である主の箱を担ぐ祭司たちの足の裏が、ヨルダン川の水の中にとどまるとき、ヨルダン川の水は、川上から流れ下る水がせき止められ、一つの堰となって立ち止まる」(13)
　祭司たちより下流の水は当然、流れ去って、川床があらわになる。そのようにして祭司たちがヨルダン川の真ん中にとどまっている間にイスラエルの民は全員、川を渡ることができるのである。これは、あの出エジプトの時に水の分かれた紅海の底をイスラエルが渡ったのと同じような奇跡である。
[14-16]「民がヨルダン川を渡ろうとして彼らの天幕から出発したとき、契約の箱を担ぐ祭司たちは民の先頭にいた。箱を担ぐ者たちがヨルダン川まで来たとき、ヨルダン川は刈り入れの期間中で、どこの川岸にも水があふれていた。ところが、箱を担ぐ祭司たちの足が水際の水に浸ると、川上から流れ下る水が立ち止まった。一つの堰が、はるかかなた、ツァレタンのそばにある町アダムで立ち上がり、アラバの海、すなわち塩の海へ流れ下る水は完全にせき止められて、民はエリコに面したところを渡った」
「ツァレタンのそばにある町アダム」…ここは今イスラエル人たちのいる地よりも30キロメートルほど上流の地である。「アダム」とは「赤土のところ」という意味であり、そ

のあたりでは高い崖になっている石灰岩の断崖が、その根元をヨルダン川の流れに洗われて、川の中に落ち込む現象がしばしば起こるという。それで合理的に考える人は、そのようにして崩れてきた崖でヨルダン川の水が一時的にせき止められたのだろうと解釈する。しかし、なぜ祭司たちの足がヨルダン川の中に入ったときにそれが起こり、イスラエル人が渡り終えたときに水が戻ったか(4:18)についてはだれも説明できない。それゆえ、これは主がそのような崖崩れという現象を用いられたとしても、主の力による奇跡であるというよりほかにはない。これはあの紅海の水が分けられたのと同様の主の奇跡なのである。
[17]「主の契約の箱を担ぐ祭司たちは、ヨルダン川の真ん中の乾いたところにしっかりと立ち止まった。イスラエル全体は乾いたところを渡り、ついに民全員がヨルダン川を渡り終えた」
　すべてを金でおおわれた主の契約の箱は太陽の光を浴びて美しくキラキラと輝いていたことであろう。それはまるで主がご自身の栄光を現してくださっているようであったであろう。
このようにして、いよいよイスラエルは約束のカナンの地に入ったのである。
　今日の個所から教えられることは何か。
信仰をもって一歩踏み出さないと分からないことがある。ヨシュアは主に信頼して行動を起こした。
彼は主の契約の箱を先頭に進めた。それはまず主なる神に正しい道に導いていただくためであり、その後ろにイスラエルが従って信仰の戦いを戦うためであった。このように主に従って前進していく時に、主のみことばが与えられ、さらなる確信をもって具体的な行動に移ることができた。そして確かに主は御力を現してくださり、ヨルダン川の水は超自然的に堰き止められ、イスラエルはその乾いた川床を全員渡ることができたのである。
　私たちも、主なる神をまず第一として主の導きを願い求め、主に従って歩み、この世におけるさまざまな信仰の戦いを戦っていく。そうする時、確かに主は私たちの先頭に立って戦われ、具体的な導きを与えてくださり、すばらしいみわざをなされ、御栄光を現してくださるであろう。
　私たちは不信仰になって座り込んだり、逃げたりするのではなく、全能の主なる神への信仰をもって、みことばの約束をかたく握って、この地上の生涯を前進していく者となりたい。
→ヘブル11:1～6